

ThreeBond



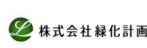
ALL JAPAN
SUPER FORMULA
Championship 2026

RACE REPORT



Round.3-6-7

FUJI SPEEDWAY

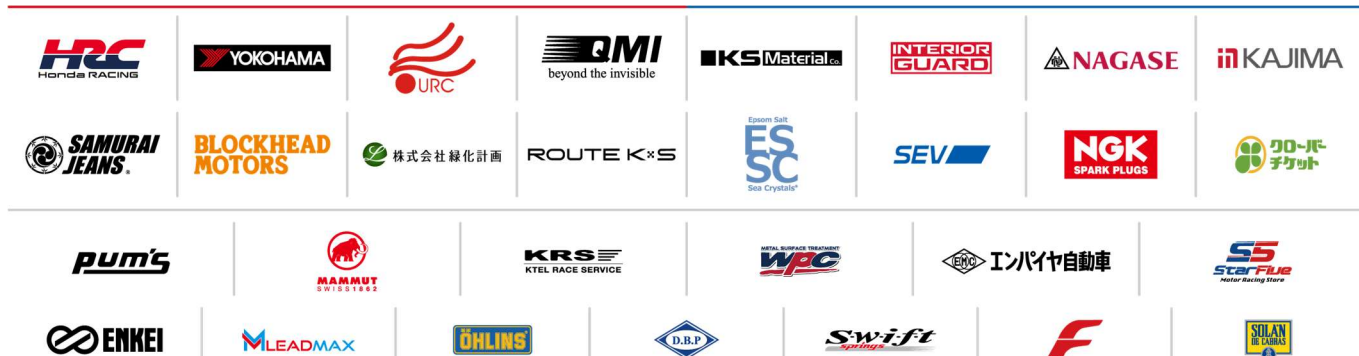




浮上なるか 真夏の富士大会

2026年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第4大会が7月17日(金)～19日(日)にかけ、静岡県富士スピードウェイで開催された。今大会は瑠子女王殿下から賜杯を賜る『第3回瑠子女王杯』として開催されるとともに、予定されていた第6戦・第7戦に加え、悪天候により順延となった第3戦(九州大会)の代替決勝レースが組み込まれた。金曜日にフリー走行、土曜日午前に第6戦と第7戦の公式予選、午後には第6戦の決勝レースが行われ、日曜日午前に第3戦の決勝レース、午後には第7戦の決勝レースというスケジュールである。

ThreeBond Racingは、6月30日～7月1日に、大会に先駆けて富士スピードウェイで行われた走行テストに参加。計27名のドライバーが出走する中、総合10番手のラップタイムを記録した。走行テストでの課題を踏まえ、改善を施したマシンでチームは富士へと乗り込んだ。





金曜日 フリー走行

走行開始と同時に雨が降り始め、金曜日の午前中走行では、出走24台中7番手のタイムを記録したものの、午後の走行では中盤に雨脚が強まり、ガレージへとマシンを戻すこととなった。終盤に予定されていた組分け走行についても、雨量が多いことから中止となり、周回数少なく、土曜日の公式予選を迎えることとなった。

Round.6 公式予選

翌土曜日、朝まで降った雨はほぼ上がったものの、コースはウェット・コンディションという状況で、午前8時10分に走行が開始された。コースインした車両は水しぶきを上げて10分間のタイムアタックを始め、公式予選Q1B組に出走した小出選手もレインタイヤを装着してコースイン。タイムアタックを開始したが、走行テストとは異なるコンディションにタイムは伸び悩んだ。結果、出走12台中9番手に終わり、Q2進出は叶わず、小出選手の第6戦決勝のスターティンググリッドは17番手と決まった。

Round.7 公式予選

第3戦決勝を日曜日に組み込んだ変則的なタイムスケジュールとなっていることから、第6戦の公式予選終了後、約1時間半の間を空けて、第7戦の公式予選が行われた。

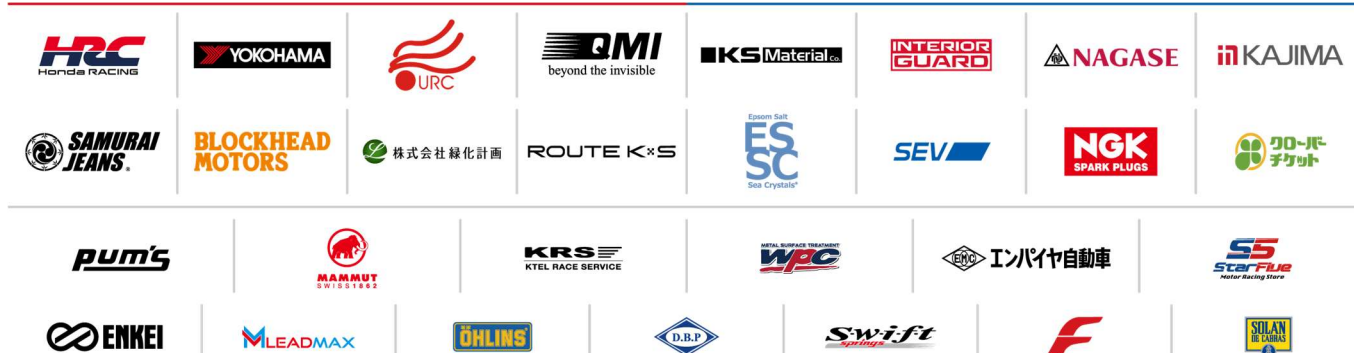
気温は26℃、路温は30℃に上がり、第6戦公式予選時点では路面に残っていた雨水はほぼ乾いたものの、コースの所々にはまだ雨水のあとが残るコンディションで走行が始まった。

小出選手はQ1B組に出走し、1分23秒817を記録したが出走12台中8番手に終わり、Q2進出はならなかった。Q2に進出したQ1B組6番手の福住仁嶺選手からは僅か0秒184の差だったが、Q2に進出できなかったことで第7戦スターティンググリッドは15番手からと決まった。



Pos	No	氏名/第6戦予選Q2タイム
1	19	ザック・オサリバン / 1' 32.166
2	39	大湯 都史樹 / 1' 32.429
3	3	ルーク・ブラウニング / 1' 32.501
17	12	小出 峻 ※Q1 タイム / 1' 33.764

Pos	No	氏名/第7戦予選Q2タイム
1	16	野尻 智紀 / 1' 22.815
2	5	牧野 任祐 / 1' 23.184
3	6	太田 格之進 / 1' 23.186
15	12	小出 峻 ※Q1 タイム / 1' 23.817





Round.6 決勝

正午頃には薄日が射し、コースは完全なドライ・コンディションとなった。ピットウォークや他カテゴリーのレースを挟み、第6戦の決勝レースは今季最も遅い午後4時15分に始まった。

スタートでは野尻選手がエンジンストールし、出遅れる波乱があったが、17番手からスタートした小出選手は上手く前方車両をかわして、オープニングラップの間に14番手へと進出した。

続く、2周目には佐藤蓮選手を第1コーナーでオーバーテイクし13番手へ進出。前を走るイゴール・オオムラ・フラガ選手と小林可夢偉選手を追いかける形で走行を続けた。この頃、小雨が降り始め、雨粒が大きくなった8周目には、いつでもウェットタイヤを装着して良い“WET宣言”が発せられたものの、ThreeBond Racingを含む多くのチームは慎重に天気を読み、ドライタイヤでの走行を続けた。

9周目のGR Supraコーナーで、小出選手は前を走っていたイゴール選手のイン側に飛び込んで順位を入れ替え、その後のストレートでオーバーテイクシステム(OTS)を使って加速すると第1コーナーまでに小林利徠斗選手に追いついてオーバーテイクし、11番手に順位を上げた。しかし、その後のコーナーで、縁石に乗り、ハンドルを取られて加速が鈍くなったことで抜き返され12番手となった。

ルール上、ドライタイヤへの交換が可能となる10周目を過ぎ、タイヤ交換のピットストップをする選手も現れるが、小出選手はピットに入らず走行を続けることを選び、好ペースで走行を続けたことで、21周目には7番手、23周目には6番手、24周目には5番手、26周目には3番手と順位を上げて行った。そして26周を走ったところで小出選手はピットイン、タイヤ交換を行った。

このタイヤ交換作業は、第6戦決勝レースで行われた全チームの中で最速となるストップタイム5.1秒で完了。素早く小出選手をコースへと戻すことに成功した。15番手でコースへと復帰した小出選手はタイヤのウォームアップに努め、数周で本来のペースを取り戻した。交換したばかりのフレッシュなタイヤは先にタイヤ交換を行っていた選手たちのタイヤよりも高いパフォーマンスを発揮し、どんどんと前を走る車両に追いつける状況となり、前を走っていた野村勇斗選手を31周目、福住選手を32周目、更には37周目にルーク・ブラウニング選手をオーバーテイクして順位を上げた。39周目の第1コーナーでは前を走っていた阪口選手とイゴール選手がわずかに接触し、速度が鈍った隙を突いてイン側から一気に2台をまとめてオーバーテイクし、6番手へ進出した。その後、最後までタイヤ交換をしていなかった小林可夢偉選手がピットに入ると、最終的に小出選手の順位は5番手まで上がり、そこでチェッカーフラッグが振られた。スーパーフォーミュラ参戦以来のチーム最高位タイとなる5位入賞となったが、雨で周回数が少なくハーフポイントとなった開幕戦とは異なり、今回はフルポイント6点の選手権ポイント獲得となった。





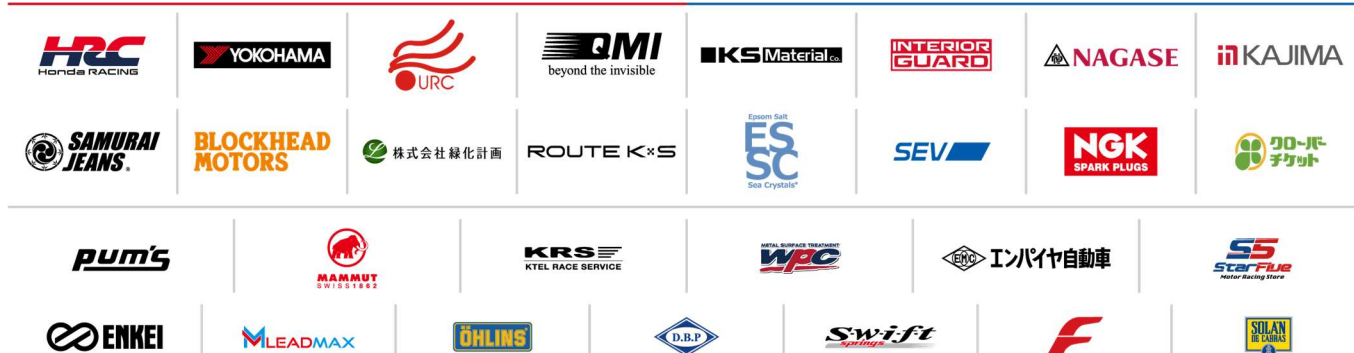
Round.3 決勝

第6戦決勝レースから一夜明けた日曜日は、4月26日(日)にオートポリス・インターナショナルレースコース(大分県)で開催される予定だった第3戦の代替決勝レースから始まった。大分での第3戦は決勝レースが悪天候を受けて、この週末へ順延となったものの、公式予選結果は大分で行われた順位を適用するため、公式予選でコースオフし、ラップタイムの計測ができていない小出選手は今回最後尾24番手からのスタートとなった。

また、第3戦代替決勝は、周回数が25周(114.075km)に短縮され、レース中のタイヤ交換義務のないスプリントレースとして開催された。日曜日の富士スピードウェイは、朝から曇りが広がったがコースはドライ。気温29℃、路温34℃という状況の午前10時05分、第3戦のフォーメーションラップが開始され、その後レースのスタートが切られた。

スタート直後、中団で他車同士がクラッシュしたが、小出選手は最後尾から上手くスタートし、オーバーテイクをしながらこのクラッシュを回避。セーフティカーが介入となったが、それまでの間に一気に14番手まで順位を上げた。

10周目からレースは再開したが、再スタート直後にジュジュ選手のマシンが停止したことで再びセーフティカーが介入。車両撤去の上、レースは14周目から再開した。その後笹原右京選手をホームストレートで追い抜きはしたものの、短いレースでこれ以上の追い抜きは叶わず、12番手でチェッカーを受けた。その後、他車にタイムペナルティが出されたこともあり、最終的に第3戦は11位となった。





Round.7 決勝

午前の第3戦終了後、チームは急ピッチでミーティングと次の第7戦を想定した準備を行い、15時35分に薄曇りの空の下で、第7戦決勝レースのフォーメーションラップが開始された。

しかしながら、フォーメーションラップ中に佐藤蓮選手の車両からオイルが漏れ、コース全域に渡ってオイルが付着したことで全車スタート位置に並んだ所で一端スタート手順が中止された。オイルの除去には時間を要し、コースの状態も変化していることから、スタートは静止状態からではなく、セーフティーカー先導でスタートすることとなり、16時20分に開始された。

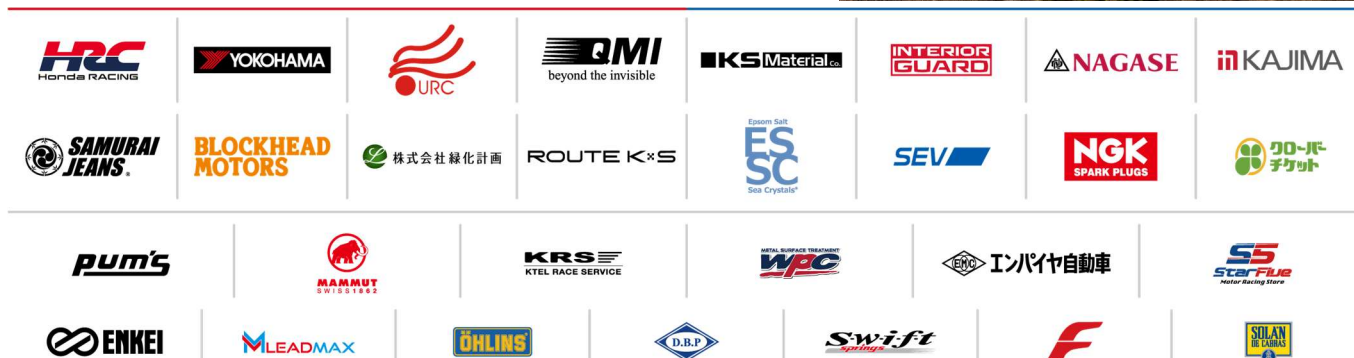
セーフティーカーは5周で退去し、フルスピードでのレースは6周目から始まった。チームと小出選手は前日5位入賞となった第6戦と同じく、できるだけタイヤ交換のタイミングを遅らせてレース後半で交換となる新しいタイヤでのパフォーマンスを活かして順位を上げる作戦を選んだ。しかし、セーフティーカー先導での隊列を組んでのスタートにより、車両同士の間隔が一定になりがちで、どの車両もオーバーテイクが難しく、レース展開は膠着状態となった。15番手スタートの小出選手は作戦がうまく活かせないまま、前の車両が見えていてもオーバーテイクには持ち込めない状況で周回は進んでいった。

タイヤ交換をせずに走行を続けた小出選手は24周目までに見かけ上の順位を7番手に上げ、25周を走ったところでタイヤ交換のピットインを行い、18番手でコースへと復帰した。

タイヤ交換の後、小出選手の走行ペースは第6戦同様に良く、先にタイヤ交換を行っていた車両に追いついてオーバーテイクを行い、30周目には14番手に順位を上げた。小出選手はさらにオーバーテイクを続け、最終的には12位でチェッカーフラッグを受けた。

この週末、小出選手は第6戦で選手権ポイント6点を獲得し、累計選手権ポイントを11点に伸ばし、チームランキング10位、ドライバーランキングは14番手へと進出した。

決勝では週末の3レース合計で28番手の順位アップに成功し、決勝の走行ペースについては自信の持てる結果となった。次戦第8戦は、8月にスポーツランドSUGO(宮城県)で開催される。





ドライバー:小出峻 コメント

第6戦はチームとのミーティングの中でクラッチの設定がとても良い所を見つけることができ、スタートに成功しました。また、スタート後の他車との位置関係も冷静に良い位置を保って走行でき、順位を上げることが出来ました。タイヤ交換のタイミングは、レース開始前からチーム内で決めており、コース上で何が起きても、できる限り交換タイミングを後半に引っ張って、タイヤを限界まで使う予定通りの戦略でした。タイヤ交換後は他車との競り合い中にオーバーテイクシステムを使うタイミングを上手くずらすことができたのが追い抜きの大きなポイントになりました。前方の車両には何秒オーバーテイクシステムの残量があって、あと何秒使えないのかをチームに常に無線で教えてもらいながら、ホームストレートで相手がこのシステムを使えない状況を作りだし、自分だけが追い抜きに使えるような状況に持ち込むことができました。



第3戦に関しては、タイヤ交換義務もなく、チャンスの少ないもどかしいレースではありました。最後、目の前にいたのはルーク・ブラウニング選手ですが、1回追い抜きを仕掛けはしたものの、相手もブロックするだけのオーバーテイクシステムの残量があり、抜ききれずにタイミングをずらして使うこともできなかったのが、悔しい展開でした。

第7戦はセーフティーカースタートで等間隔に隊列が出来てしまい、オーバーテイクが難しい状況でした。週末を通して静止状態からの加速が良いクルマに仕上がっていたので、スタート直後の攻防には自信があったのですが、それが活かせない展開となってしまいました。タイヤ交換は前日の第6戦と同じ戦略で行くと決めており、他車と比べるとタイヤの消耗が少ないと感じていたのも、その長所を存分に引き出して、レース後半までタイヤ交換を引っ張り、後半にフレッシュなタイヤでオーバーテイクしていくという作戦でした。クルマのパフォーマンスとしては、表彰台が見える位置にさしかかっていたと思います。

第6戦では5位になりましたが、17番手スタートからの5位獲得なので、更に前方のグリッドからスタートできていれば、より良い順位を狙っていたのではないかと思います。予選で上位を取ることが現状の課題です。もっと予選の順位を上げて行かないと、レースで表彰台は狙えません。ただ、今の状態でいきなり予選順位を上げて表彰台に行けるかというと、そう簡単ではありません。やはりしっかりと経験を積み上げていって、マシンとチームのパフォーマンスを少しずつ上げて行くことが必要だと思います。そのようにすれば本当にシーズン後半戦で表彰台に乗ることも現実味を帯びてくると思います。

次戦はスポーツランドSUGOです。日本のコースの中で1番好きなコースで、自信もあります。去年は違うチームでしたが、フリー走行ではトップタイムを出せました。今はチームとしてすごく良い流れに乗っていますし、自分自身も得意なコースなので、ここで大きい花火を上げられたら良いなと思っています。



監督:塚越広大 コメント

前回の鈴鹿大会から今大会までの間には走行テストがあり、開幕戦から今まで試してきた車の方向性や小出選手のドライビングスキルなどを改めて確認できました。小出選手とエンジニアの間でお互い理解を深め、エンジニア側が向きたい方向性とドライバーの好みを、どこでどのように擦り合わせるかが重要なのですが、今回の走行テストではその点を大きく深めることができました。本当にポジティブな、良いテストができたと思います。

その成果もあり、期待を持って大会に臨むこととなりました。しかし天候が悪く、予選結果としては満足いくものとはなりません。課題は残りましたが、チームとしては目指す軸はブレずに週末を通じて挑戦できたと思います。決勝は3レースともにスタートの番手から順位を上げることができ、特に第6戦のレースに関しては、小出選手が素晴らしい走りだったことはもちろん、チームのピット作業が素早く、全チームの中で1番早い作業時間だったようです。今年ピット作業は日頃から本当に一生懸命練習しており、それが形になって結果に繋がったのは、チームにとり重要な意味があります。このような緊張感のある中でレースの経験を積み重ねていければ、更にチームを強くしていくことができていると思っています。



トラックエンジニア:大駅俊臣 コメント

予選に課題が残りました。ただ、決勝の走行ペースが良いことも分かりました。小出選手も頑張ってくれて、タイヤのマネージングも上手くいき、良いパフォーマンスが出せていると思います。しかし、やはり中団の中で走っていると、これ以上なかなか前に出ることは難しく、予選で上位を獲得しなければなりません。

予選に関しては、もう一度様々な点を見直す必要があると思っています。予選はとてもレベルが高く、0.1秒の世界で勝負しているので、ドライビングだけ、マシンのセッティングだけではなく、全部をパズルのようにカチッと合める必要があります。常に上位にいるチームは、そのパズルが毎回しっかりとできているのだと思います。その難しさも理解しながら進めたいのですが、今のThreeBond Racingがやってきていることがズレているとは思いません。ほんの些細なことの積み重ねなのだと思います。



第7戦についてはもっと上位を狙えたはずですが、運悪くセーフティーカースタートになってしまったことで、他車と集団で動くことになってしまいました。我々のような中団で争うチームは、いつピットに入ってもどの位置でコースに戻るかが大事なのですが、レース展開に動きが少なく、順位的大幅アップを目指すには苦しい状況になってしまいました。決勝レースのペースが良いのは第6戦で分かっていただけに、とても残念です。

ピット作業については練習の成果で、精度が良くなり、作業時間も速くなりました。メカニックの頑張りを受けて、更にドライバーが頑張ってくれて結果を持ち帰ってきてくれているので、作業を行うメカニックのモチベーションもより高くなります。今、チーム全体では良い流れになっていると思います。でもこの流れをずっと続けることが大変で、この良い流れの中にいないと、表彰台には行けません。チーム全員でチャンスをつかめるように頑張っているのです、近い将来良い結果を得られるのではないかと楽しみにしています。



Round.6 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	59' 43.973
2	19	ザック・オサリバン	TEAM IMPUL	59' 45.515
3	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	59' 48.070
4	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	59' 57.155
5	12	小出 峻	ThreeBond Racing	1:00' 05.677
6	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	1:00' 09.035
7	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:00' 10.552
8	3	ルーク・ブラウニング	REALIZE KONDO RACING	1:00' 10.815
9	50	野村 勇斗	San-Ei Gen with B-Max	1:00' 16.392
10	1	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN AUTOBACS	1:00' 17.159
11	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	1:00' 17.217
12	7	小林 可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC	1:00' 19.275
13	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	1:00' 19.981
14	8	山下 健太	KCMG	1:00' 23.883
15	36	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	1:00' 24.216
16	97	ロマン・スタネック	ナビクル Buzz MK RACING	1:00' 31.528
17	22	松下 信治	DELIGHTWORKS RACING	1:00' 32.305
18	9	ジュリアーノ・アレジ	KCMG	1:00' 37.078
19	28	小林 利徳斗	KDDI TGMGP TGR-DC	1:00' 37.834
20	4	笹原 右京	REALIZE KONDO RACING	1:00' 45.294
21	53	チャーリー・ブルツ	TEAM GOH	1:00' 48.420
22	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	1 Lap 遅れ
23	14	福住 仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE	1 Lap 遅れ
24	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN AUTOBACS	1 Lap 遅れ





Round.3 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	47' 30.689
2	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN AUTOBACS	47' 32.768
3	36	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	47' 34.453
4	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	47' 39.305
5	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	47' 39.992
6	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	47' 40.954
7	28	小林 利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC	47' 42.498
8	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	47' 43.324
9	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	47' 45.151
10	3	ルーク・ブラウニング	REALIZE KONDO RACING	47' 45.366
11	12	小出 峻	ThreeBond Racing	47' 46.052
12	7	小林 可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC	47' 47.523
13	8	山下 健太	KCMG	47' 48.304
14	50	野村 勇斗	San-Ei Gen with B-Max	47' 51.481
15	53	チャーリー・ブルツ	TEAM GOH	47' 53.050
16	19	ザック・オサリバン	TEAM IMPUL	47' 53.532
17	22	松下 信治	DELIGHTWORKS RACING	47' 56.245
18	9	野中 誠太	KCMG	47' 57.649
19	14	福住 仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE	47' 58.396
20	4	笹原 右京	REALIZE KONDO RACING	48' 05.596
21	97	ロマン・スタネック	ナビクル Buzz MK RACING	48' 13.787
-	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	8Laps 遅れ
-	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	16Laps 遅れ
-	1	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN AUTOBACS	DNF





Round.7 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:05' 32.478
2	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	1:05' 37.462
3	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:05' 39.055
4	36	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	1:05' 47.767
5	1	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN AUTOBACS	1:05' 52.033
6	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN AUTOBACS	1:05' 56.800
7	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:05' 58.307
8	14	福住 仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE	1:05' 59.222
9	7	小林 可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC	1:06' 00.030
10	8	山下 健太	KCMG	1:06' 00.713
11	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:06' 01.563
12	12	小出 峻	ThreeBond Racing	1:06' 02.055
13	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	1:06' 03.275
14	50	野村 勇斗	San-Ei Gen with B-Max	1:06' 04.372
15	19	ザック・オサリバン	TEAM IMPUL	1:06' 05.896
16	22	松下 信治	DELIGHTWORKS RACING	1:06' 08.910
17	3	ルーク・ブラウニング	REALIZE KONDO RACING	1:06' 09.607
18	53	チャーリー・ブルツ	TEAM GOH	1:06' 21.409
19	97	ロマン・スタネック	ナビクル Buzz MK RACING	1:06' 22.092
20	28	小林 利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC	1:06' 30.102
21	4	笹原 右京	REALIZE KONDO RACING	1:06' 31.292
-	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	8Laps 遅れ
-	9	ジュリアーノ・アレジ	KCMG	18Laps 遅れ
-	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	DNS





Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			もてぎ	もてぎ	AP&富士	鈴鹿	鈴鹿	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	太田 格之進	95	2+10	3+20	2+2	4	11	20	1+20					
2	岩佐 歩夢	44.5	3+7.5	1+3	3+0	3+0	2+15	1	6					
3	イゴール・オオムラ・フラガ	39	4	0	12	0	3	5	15					
4	福住 仁嶺	38	0	11	0	1	3+20	0	3					
5	牧野 任祐	36	0	0	6	0	1+5	11	2+11					
6	坪井 翔	33	1	0	7	11	6	0	8					
7	サツシャ・フェネストラズ	31.5	2.5	0	5	20	4	0	0					
8	大湯 都史樹	31	0	2+6	4	5	0	2+8	4					
9	阪口 晴南	27	0	15	0	0	8	4	0					
10	ザック・オサリバン	25	0	5	0	2	0	3+15	0					
11	野尻 智紀	21.5	1.5	0	1+9	2+0	0	0	3+5					
12	ルーク・ブラウニング	20	0	8	0	8	0	1+3	0					
13	松下 信治	16	0	1	0	15	0	0	0					
14	小出 峻	11	3	2	0	0	0	6	0					
15	佐藤 蓮	9.5	1+5.5	0	1	0	2	0	0					
16	チャーリー・ブルツ	6	0	0	0	6	0	0	0					
17	山下 健太	5	0	4	0	0	0	0	1					
18	野村 勇斗	5	2	0	0	1+0	0	2	0					
19	ロマン・スタネック	3.5	0.5	0	0	3	0	0	0					
20	小林 利徠斗	3	0	0	3	0	0	0	0					
21	小林 可夢偉	3	0	0	0	0	1	0	2					
-	笹原 右京	0	0	0	0	0	0	0	0					
-	ジュリアーノ・アレジ	0	0	0	0	0	0	0	0					
-	野中 誠太	0	0	0	0	0	0	0	0					
-	ジュジュ	0	0	0	0	0	0	0	0					





Team Ranking

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			もてぎ	もてぎ	AP&富士	鈴鹿	鈴鹿	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	120	0+10	0+20	6+2	0+4	5+11	11+20	11+20					
2	VANTELIN TEAM TOM'S	64.5	1+2.5	0+0	7+5	11+20	6+4	0+0	8+0					
3	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	54	0+0	15+6	0+4	0+5	8+0	4+8	0+4					
4	TEAM MUGEN AUTOBACS	48	7.5+1.5	3+0	0+9	0+0	15+0	1+0	6+5					
5	PONOS NAKAJIMA RACING	47.5	5.5+4	0+0	1+12	0+0	2+3	0+5	0+15					
6	NTT docomo Business ROOKIE	35	0	11	0	1	20	0	3					
7	TEAM IMPUL	22	0	5	0	2	0	15	0					
8	REALIZE KONDO RACING	19	0+0	8+0	0+0	8+0	0+0	3+0	0+0					
9	DELIGHTWORKS RACING	16	0	1	0	15	0	0	0					
10	ThreeBond Racing	11	3	2	0	0	0	6	0					
11	TEAM GOH	6	0	0	0	6	0	0	0					
12	KDDI TGMGP TGR-DC	6	0+0	0+0	0+3	0+0	1+0	0+0	2+0					
13	KCMG	5	0+0	4+0	0+0	0+0	0+0	0+0	1+0					
14	San-Ei Gen with B-Max	4	2	0	0	0	0	2	0					
15	ナビクル Buzz MK RACING	3.5	0.5	0	0	3	0	0	0					
-	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	0	0	0	0	0	0	0	0					